

1 学年だより

令和3年9月8日(木)

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 晋代裕

秋の気配を感じます

毎朝、通勤する時に、私は学校の東階段を使わずに、あえてテニスコートの横にあるクロカンのわき道を上ってきます。クロカンのわき道は、野草が道端に咲いていて、ふと足を止めて覗くのが私にとって、ちょっとした朝の贅沢な時間です。夏休みは、強い日差しを肩に浴びて、汗を拭きながらクロカンのわき道を上ってました。桜の木陰に感謝しながら裏庭の駐車場まで登ってくるときに、蟬の鳴き声が四方八方から聞こえてきます。額に手を当てて、桜の木の枝を見回して、一匹ぐらい蟬を見つけ出してみたいと思うのですが、ギラギラした太陽が邪魔して見つかりません。しかし、夏休みが終わって、学校がスタートした9月になると嘘のように蟬の鳴き声がなくなりました。Tシャツで汗をかきながら歩いていた夏休みとは異なり、長袖のYシャツを着ないと朝夕は少し肌寒い感じです。

朝、クロカンのわき道を歩いていると、コロコロ、ジージーと草むらから虫たちの鳴き声が聞こえてきます。足を止めて、耳を澄ますと、草むらからバッタが跳ねてきました。思わず苦笑しながら、「秋なんだ」とあらためて感じました。毎日、何気なく歩いている通学路も心の目を開いてみると季節の移り変わっていくのがわかります。忙しい朝の時間ですが、ちょっと耳を澄ましたり、足元を見たりすると新しい発見があってうれしい気持ちになると思います。

日本は、四季があるので、その変わり目に自然を受け止めて心の準備をしてきました。その一つに衣替えがあります。同じシャツでも春に着るシャツと秋に着るシャツでは色を変えて季節を味わいます。春は若草色とか薄い青色など淡い色が好まれます。秋になるとワインカラーとかブラウンなど深い色が人気となります。このように同じシャツでも春先のシャツと秋口のシャツでは色合いを変えて季節を楽しむ文化があります。学校でも、夏服と冬服の二つの制服を用意して、10月と6月に一斉に衣替えをしました。6月になると詰襟とブレザーを全校生徒が脱いで、ワイシャツで登校します。6月1日は学校が白くなって、夏が近づくと肌で感じました。

今は、衣替えの指定日がなくなり、個人に任せられました。いつの間にか、衣替えという言葉も生活の中から消えてきたかなと感じます。しかし、新しい季節に目標をもって臨むことは大事なことでと思います。衣替えが生活の中から消えていく現代、自分の心の中で季節を感じ楽しむ心を大切にしてくださいね。……まだ、夏休み真っ盛りの気持ちの人はいませんか？テストに向かって、気持ちを切り替えてください。秋は「勉強の秋」でもあるので(笑)

